

| 行番号 | 追加・削除・変更を行う項目 | 意見の種別 | 意見及びその理由等 |
|-----|--------------------------------------|-------|---|
| 30 | 仕事および熱の概念 | 変更 | 一部内容に絞る。または医療薬学との結びつかせようで出題すべきである。 |
| 30 | 仕事および熱の概念 | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 30 | 仕事および熱の概念 | 削除 | 最も基本的な項目であるが、薬剤師国家試験でこの項目を問う必要性はないと考えられる。 |
| 30 | 仕事および熱の概念 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 31 | 定容熱容量および定圧熱容量 | 変更 | 一部内容に絞る。または医療薬学との結びつかせようで出題すべきである。 |
| 31 | 定容熱容量および定圧熱容量 | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 31 | 定容熱容量および定圧熱容量 | 削除 | 最も基本的な項目であるが、薬剤師国家試験でこの項目を問う必要性はないと考えられる。 |
| 31 | 定容熱容量および定圧熱容量 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 31 | 定容熱容量および定圧熱容量 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 32 | 熱力学第一法則(式を用いた説明) | 変更 | 一部内容に絞る。または医療薬学との結びつかせようで出題すべきである。 |
| 32 | 熱力学第一法則(式を用いた説明) | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 32 | 熱力学第一法則(式を用いた説明) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 32 | 熱力学第一法則(式を用いた説明) | 変更 | 特に式を覚える必要はない。熱力学第一法則について説明できる。 |
| 33 | 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる | 変更 | 代表的な過程(変化)における熱と仕事の計算 |
| 33 | 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる | 変更 | 一部内容に絞る。または医療薬学との結びつかせようで出題すべきである。 |
| 33 | 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 33 | 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 33 | 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 34 | エンタルピー | 変更 | 一部内容に絞る。または医療薬学との結びつかせようで出題すべきである。 |
| 34 | エンタルピー | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 34 | エンタルピー | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 35 | 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる | 変更 | 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化の計算 |
| 35 | 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる | 変更 | 一部内容に絞る。または医療薬学との結びつかせようで出題すべきである。 |
| 35 | 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 35 | 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |

| 行番号 | 追加・削除・変更を行う項目 | 意見の種別 | 意見及びその理由等 |
|-----|--------------------------------------|-------|---|
| 35 | 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 35 | 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる | 削除 | 熱力学の基本ではあるが、数値計算まで課さなくてもよいのではないか。 |
| 36 | 標準生成エンタルピー | 変更 | 一部内容に絞る。または医療薬学との結びつかせようで出題すべきである。 |
| 36 | 標準生成エンタルピー | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 36 | 標準生成エンタルピー | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 36 | 標準生成エンタルピー | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 37 | 自発的な変化 | 変更 | 一部内容に絞る。または医療薬学との結びつかせようで出題すべきである。 |
| 37 | エンタルピー | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 37 | エンタルピー | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 38 | 熱力学第二法則 | 変更 | 一部内容に絞る。または医療薬学との結びつかせようで出題すべきである。 |
| 38 | 熱力学第二法則 | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 38 | 熱力学第二法則 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 39 | 代表的な物理変化、化学変化に伴うエンタルピー変化を計算できる | 変更 | 代表的な物理変化、化学変化に伴うエンタルピー変化の計算 |
| 39 | 代表的な物理変化、化学変化に伴うエンタルピー変化を計算できる | 変更 | 一部内容に絞る。または医療薬学との結びつかせようで出題すべきである。 |
| 39 | 代表的な物理変化、化学変化に伴うエンタルピー変化を計算できる | 削除 | エンタルピー変化の計算は過剰の要求と思われる。 |
| 39 | 代表的な物理変化、化学変化に伴うエンタルピー変化を計算できる | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 39 | 代表的な物理変化、化学変化に伴うエンタルピー変化を計算できる | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 39 | 代表的な物理変化、化学変化に伴うエンタルピー変化を計算できる | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 40 | 熱力学第三法則 | 変更 | 一部内容に絞る。または医療薬学との結びつかせようで出題すべきである。 |
| 40 | 熱力学第三法則 | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 40 | 熱力学第三法則 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 40 | 熱力学第三法則 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 41 | 自由エネルギー | 変更 | 一部内容に絞る。または医療薬学との結びつかせようで出題すべきである。 |
| 41 | 自由エネルギー | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |

| 行番号 | | | 追加・削除・変更を行う項目 | 意見の類別 | 意見及びその理由等 |
|-----|-------------|------|------------------------------------|-------|---|
| 41 | | | 自由エネルギー | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 42 | | | 熱力学関数の計算結果に基づく自発的な変化の方向と程度を予測できる | 変更 | 熱力学関数の計算結果に基づく自発的な変化の方向と程度 |
| 42 | | | 熱力学関数の計算結果に基づく自発的な変化の方向と程度を予測できる | 変更 | 一部内容に絞る、または医療薬学との結びつかせようとして出題すべきである。 |
| 42 | | | 熱力学関数の計算結果に基づく自発的な変化の方向と程度を予測できる | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 42 | | | 熱力学関数の計算結果に基づく自発的な変化の方向と程度を予測できる | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 43 | | | 自由エネルギーの圧力と温度による変化(式を用いた説明) | 変更 | 一部内容に絞る、または医療薬学との結びつかせようとして出題すべきである。 |
| 43 | | | 自由エネルギーの圧力と温度による変化(式を用いた説明) | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 43 | | | 自由エネルギーの圧力と温度による変化(式を用いた説明) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 43 | | | 自由エネルギーの圧力と温度による変化(式を用いた説明) | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸中性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 43 | | | 自由エネルギーの圧力と温度による変化(式を用いた説明) | 削除 | 熱力学の基本ではあるが、数値計算まで課さなくてもよいのではないか。 |
| 44 | | | 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性(van'tHoffの式) | 変更 | 一部内容に絞る、または医療薬学との結びつかせようとして出題すべきである。 |
| 44 | | | 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性(van'tHoffの式) | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 44 | | | 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性(van'tHoffの式) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 44 | | | 自由エネルギーの圧力と温度による変化(式を用いた説明) | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸中性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 45 | | | 共役反応(例示) | 変更 | 共役反応 |
| 45 | | | 共役反応(例示) | 変更 | 一部内容に絞る、または医療薬学との結びつかせようとして出題すべきである。 |
| 45 | | | 共役反応(例示) | 削除 | この例は生物系薬学の内容の広範にわたる範囲が含まれるので、受験生の負担が大きいと思います。 |
| 45 | | | 共役反応(例示) | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 45 | | | 共役反応(例示) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 45 | | | 自由エネルギーの圧力と温度による変化(式を用いた説明) | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸中性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 46 | (3)物質の状態 II | 物理平衡 | 相変化に伴う熱の移動(Clausius-Clapeyronの式など) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 46 | | | 相変化に伴う熱の移動(Clausius-Clapeyronの式など) | 変更 | 理論そのものは、物質の状態を知る上で重要であるが、国家試験問題として出題する場合、単なる暗記だけの問題になる懸念があり、いかなるものか、とボルツマン分布やClausius-Clapeyronの式そのものは削除すべき |

| 行番号 | | | 追加・削除・変更を行う項目 | 意見の類別 | 意見及びその理由等 |
|-----|--|-------|-----------------------------|-------|--|
| 47 | | | 相平衡と相律 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 48 | | | 代表的な状態図(一成分子、二成分系、三成分系相図) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 48 | | | 代表的な状態図(一成分子、二成分系、三成分系相図) | 変更 | 三成分系相図は不要であると思う。三成分となる初級の教科書ではカバーできないほど多くのケースが考えられ、そこまで問うことは疑問を感じる。 |
| 49 | | | 物質の溶解平衡 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 50 | | | 溶液の束一的性質(蒸気圧、沸点上昇、凝固点降下など) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 51 | | | 界面における平衡 | 追加 | コロイド(化学) 脱落しているように思いますが、どこかの項目に入っているのでしょうか |
| 51 | | | 界面における平衡 | 追加 | 分散系(論) 脱落しているように思いますが、どこかの項目に入っているのでしょうか |
| 51 | | | 界面における平衡 | 追加 | 高分子(化学) 脱落しているように思いますが、どこかの項目に入っているのでしょうか |
| 51 | | | 界面における平衡 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 52 | | | 吸着平衡 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 53 | | | 代表的な物理平衡を視測し、平衡定数を求めることができる | 変更 | 代表的な物理平衡の平衡定数 |
| 53 | | | 代表的な物理平衡を視測し、平衡定数を求めることができる | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 54 | | 溶液の化学 | 化学ポテンシャル | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 55 | | | 活量と活量係数 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 56 | | | 平衡と化学ポテンシャルの関係 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 57 | | | 電解質のモル伝導度の濃度変化 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 57 | | | 電解質のモル濃度の濃度変化 | 削除 | 電解質については、イオン強度と活量係数の理解で十分。 |
| 58 | | | イオンの輸率と移動度 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 58 | | | イオンの輸率と移動度 | 削除 | 電解質については、イオン強度と活量係数の理解で十分。 |
| 58 | | | イオンの輸率と移動度 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸中性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 58 | | | イオンの輸率と移動度 | 削除 | 薬剤師として必須の知識とは考えられない。 |

| 行番号 | | 追加・削除・変更を行う項目 | 意見の種別 | 意見及びその理由等 |
|-----|------|---------------------------------|-------|---|
| 59 | | イオン強度 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 60 | | 電解質の活量計数の濃度依存性 (Debye-Hückelの式) | 削除 | 行番号55「活量と活量計数」に定性的な内容は含まれている。 |
| 60 | | 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückelの式) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 60 | | 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückelの式) | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 61 | 電気化学 | 代表的な化学電池の種類とその構成 | 削除 | 他の教科との関連性がなく、単発の知識を試すのにすぎない。 |
| 61 | | 代表的な化学電池の種類とその構成 | 削除 | Nernstの式の理解および膜電位と能動輸送以外の項目は不必要 |
| 61 | | 代表的な化学電池の種類とその構成 | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 61 | | 代表的な化学電池の種類とその構成 | 削除 | 最も基本的な項目であるが、薬剤師国家試験でこの項目を問う必要性はないと考えられる。 |
| 61 | | 代表的な化学電池の種類とその構成 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 61 | | 代表的な化学電池の種類とその構成 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 61 | | 代表的な化学電池の種類とその構成 | 削除 | 薬剤師の国家試験に具体的な化学電池の知識までは必要ないと思われる |
| 62 | | 標準電極電位 | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 62 | | 標準電極電位 | 削除 | 最も基本的な項目であるが、薬剤師国家試験でこの項目を問う必要性はないと考えられる。 |
| 62 | | 標準電極電位 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 62 | | 標準電極電位 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 62 | | 標準電極電位 | 削除 | 暗記しているかどうかを問うのはやめて、関係書物を見て確認すればいいことで、国試問題としては不適切 |
| 63 | | 起電力と標準自由エネルギー変化の関係 | 削除 | 他の教科との関連性がなく、単発の知識を試すのにすぎない。 |
| 63 | | 起電力と標準自由エネルギー変化の関係 | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 63 | | 起電力と標準自由エネルギー変化の関係 | 削除 | 最も基本的な項目であるが、薬剤師国家試験でこの項目を問う必要性はないと考えられる。 |
| 63 | | 起電力と標準自由エネルギー変化の関係 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 63 | | 起電力と標準自由エネルギー変化の関係 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 63 | | 起電力と標準自由エネルギー変化の関係 | 削除 | 溶液の化学と電気化学そのものを見直すべきと考えるが、特にこの2つの項目が、「薬剤師」の資質とどう結び付くのか疑問 |
| 63 | | 起電力と標準自由エネルギー変化の関係 | 削除 | 暗記しているかどうかを問うのはやめて、関係書物を見て確認すればいいことで、国試問題としては不適切 |

| 行番号 | | 追加・削除・変更を行う項目 | 意見の種別 | 意見及びその理由等 |
|-----|----------|-------------------------------------|-------|---|
| 64 | | Nernstの式の誘導 | 削除 | 質的には前後の内容において含まれているので、技術的な式の誘導は必要ないと思います。 |
| 64 | | Nernstの式の誘導 | 削除 | 卒業の時点で問われるべき問題とは思えない。 |
| 64 | | Nernstの式の誘導 | 削除 | Nernst式は、計算も含めて出題されてよいが、式の誘導を範囲に入れる必要はない。 |
| 64 | | Nernstの式の誘導 | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 64 | | Nernstの式の誘導 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 64 | | Nernstの式の誘導 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 64 | | Nernstの式の誘導 | 削除 | 溶液の化学と電気化学そのものを見直すべきと考えるが、特にこの2つの項目が、「薬剤師」の資質とどう結び付くのか疑問 |
| 65 | | 濃淡電池 | 削除 | 他の教科との関連性がなく、単発の知識を試すのにすぎない。 |
| 65 | | 濃淡電池 | 削除 | 卒業の時点で問われるべき問題とは思えない。 |
| 65 | | 濃淡電池 | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 65 | | 濃淡電池 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 65 | | 濃淡電池 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 65 | | 濃淡電池 | 削除 | 薬剤師として必須の知識とは考えられない。 |
| 66 | | 膜電位と能動輸送 | 削除 | 後出の具体的な分野で取り扱うならよいですが、ここで一般性の高い内容の理解はやや難しいかと思います。 |
| 66 | | 膜電位と能動輸送 | 削除 | CBTでの確認で十分だと思う。 |
| 66 | | 膜電位と能動輸送 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 66 | | 膜電位と能動輸送 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 67 | (4)物質の変化 | 反応速度 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 68 | | 反応次数と速度定数 | 変更 | 微分型速度式を積分型速度式に変換できる |
| 68 | | 反応次数と速度定数 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 68 | | 反応次数と速度定数 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 69 | | 代表的な反応次数の決定法(列挙) | 変更 | 代表的な反応次数の決定法 |
| 69 | | 代表的な反応次数の決定法(列挙) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 70 | | 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる | 変更 | 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求める |
| 70 | | 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 71 | | 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連鎖反応など)の特徴 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 72 | | 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |

| 行番号 | | 追加・削除・変更を行う項目 | 意見の種別 | 意見及びその理由等 |
|-----|-------|------------------------|-------|--|
| 73 | | 衝突理論 | 削除 | 薬剤師として応用性が低く、内容が高度であると思います。 |
| 73 | | 衝突理論 | 削除 | 反応論のかなり専門的な部分であり、国家試験の範囲として必要とは思えない。 |
| 73 | | 衝突理論 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 73 | | 衝突理論 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸中性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 74 | | 遷移状態理論 | 削除 | 薬剤師として応用性が低く、内容が高度であると思います。 |
| 74 | | 遷移状態理論 | 削除 | 反応論のかなり専門的な部分であり、国家試験の範囲として必要とは思えない。 |
| 74 | | 遷移状態理論 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 74 | | 遷移状態理論 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸中性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 75 | | 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 75 | | 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など) | 変更 | 反応速度の影響する因子が理解できているかを問う項目がないので、この項目のタイトルを触媒反応に限定している言い方ではない、反応速度に影響する因子の列挙等に変更した方がよいと思う。 |
| 76 | | 酵素反応およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 76 | | 酵素反応およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構 | 削除 | 多の項目(442行や444行)と重複するので、それらに含めてもよいと思います。 |
| 76 | | 酵素反応およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構 | 追加 | その他の分解機構 光分解、イオン強度など医薬品の安定化に関する知識が必要 |
| 77 | 物質の移動 | 拡散および溶解速度 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 77 | | 拡散および溶解速度 | 削除 | 多の項目(946行など)と重複するので、それらに含めてもよいと思います。 |
| 78 | | 沈降現象 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 78 | | 沈降現象 | 削除 | 多の項目(953行)と重複するので、それらに含めてもよいと思います。 |
| 79 | | 流動現象および粘度 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 79 | | 流動現象および粘度 | 削除 | 行番号954との重複が考えられる。 |
| 79 | | 流動現象および粘度 | 削除 | 多の項目(954行)と重複するので、それらに含めてもよいと思います。 |

C2 化学物質の分析

| 行番号 | | 追加・削除・変更を行う項目 | 意見の種別 | 意見及びその理由等 |
|-----|---------|-----------------------|-------|--|
| 80 | (1)化学平衡 | 酸・塩基平衡 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 81 | | 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる | 変更 | 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定 |
| 81 | | 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 81 | | 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸中性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 81 | | 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる | 変更 | 到達目標において技能に関することにより、・・・Tできる」を「方法J」に変更すべきである |
| 82 | | 溶液のpHを計算できる | 変更 | 溶液のpHを計算 |
| 82 | | 溶液のpHを計算できる | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 83 | | 緩衝作用(具体例) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 84 | | 代表的な緩衝液の特徴とその調製法 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 84 | | 代表的な緩衝液の特徴とその調製法 | 削除 | 代表的な緩衝液 緩衝液の特徴・調製法は不要 |
| 85 | | 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 86 | | 各種の化学平衡 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 86 | | 錯体・キレート生成平衡 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 86 | | 錯体・キレート生成平衡(各種の化学平衡) | 変更 | この項目のみ「各種の」がついているのはおかしい(項目名は化学平衡でよいと思われる) |
| 87 | | 沈殿平衡(溶解度と溶解度積) | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 88 | | 酸化還元電位 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 88 | | 酸化還元電位 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸中性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 89 | | 酸化還元平衡 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |

| 行番号 | | 追加・削除・変更を行う項目 | 意見の種別 | 意見及びその理由等 |
|-----|---------------|-------------------------------|-------|--|
| 89 | | 酸化還元平衡 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 90 | | 分配平衡 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 91 | | イオン交換 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 92 | (2)化学物質の検出と定量 | 定性試験 | 削除 | 35年前の学生時代に講義を受け、分析化学の実習で行ったメインの内容でしたが、この35年間、研究機関、教育機関において必要な状況は一度もありませんでした。過去の薬剤師国家試験においても関連の問題の主題はなく、薬剤師が活躍するであろう実社会においてもこの知識、手法を駆使することなく、この内容は削除して良いかと思えます。 |
| 92 | | 代表的な無機イオンの定性反応 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 92 | | 代表的な無機イオンの定性反応 | 削除 | 決して重要ではないとは思わないし、講義も行っているが、平成8年の国家試験の大変率に降った(出題されていない)。出題する気がないのなら、範囲からはずした方が学生の負担軽減のためにはよいと思う |
| 92 | | 代表的な無機イオンの定性反応 | 削除 | CBTでの対応で充分。国試まで引っ張る必要はない |
| 92 | | 代表的な無機イオンの定性反応 | 追加 | (2)化学物質の検出と定量 126～128行に構造解析の手段としての分光分析が取り上げられているが、これらの方法は(2)化学物質の検出と定量(92行)及び(3)分析技術の臨床応用の所で重要な定量技術(臨床では多用)であるにも関わらず、含まれていない。 |
| 93 | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験(列挙)とその内容 | 変更 | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験とその内容 |
| 93 | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験(列挙)とその内容 | 削除 | 決して重要ではないとは思わないし、講義も行っているが、平成8年の国家試験の大変率に降った(出題されていない)。出題する気がないのなら、範囲からはずした方が学生の負担軽減のためにはよいと思う |
| 93 | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験(列挙)とその内容 | 削除 | CBTでの対応で充分。国試まで引っ張る必要はない |
| 94 | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験(列挙)とその内容 | 変更 | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験とその内容 |
| 94 | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験(列挙)とその内容 | 削除 | 決して重要ではないとは思わないし、講義も行っているが、平成8年の国家試験の大変率に降った(出題されていない)。出題する気がないのなら、範囲からはずした方が学生の負担軽減のためにはよいと思う |
| 94 | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験(列挙)とその内容 | 削除 | CBTでの対応で充分。国試まで引っ張る必要はない |
| 95 | | 定量の基礎 | 変更 | 設問にもよるが、処理法が多岐に亘るので、出題が困難では？ |
| 96 | | 医薬品分析法のバージョン | | |
| 97 | | 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法 | 削除 | あまり使われていないので削除すべきである |
| 98 | | 日本薬局方収載の容量分析法 | | |
| 99 | | 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴 | 変更 | "の特徴"を除く。特徴が何を意味するのか曖昧である。 |
| 99 | | 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴 | 削除 | あまり使われていないので削除すべきである |
| 100 | | 容量分析 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |

| 行番号 | | 追加・削除・変更を行う項目 | 意見の種別 | 意見及びその理由等 |
|-----|--|------------------------------------|-------|--|
| 100 | | 中和滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 100 | | 中和滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 共用試験において関連する基本的事項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。 |
| 100 | | 中和滴定の原理、操作法および応用例 | 変更 | 100の「中和滴定」は、「酸塩基滴定(非水滴定を含む)」とし、101は、削除するべき。非水滴定は反応媒体に基づく用語であり、これを他の沈殿滴定やキレート滴定と同等に扱うのは不自然。ほとんどの非水滴定は酸塩基反応に基づいているので、上記のように変えた方がよいと思う。 |
| 101 | | 非水滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 101 | | 非水滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 101 | | 非水滴定の原理、操作法および応用例 | 変更 | 100の「中和滴定」は、「酸塩基滴定(非水滴定を含む)」とし、101は、削除するべき。非水滴定は反応媒体に基づく用語であり、これを他の沈殿滴定やキレート滴定と同等に扱うのは不自然。ほとんどの非水滴定は酸塩基反応に基づいているので、上記のように変えた方がよいと思う。 |
| 101 | | 非水滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 共用試験において関連する基本的事項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。 |
| 102 | | キレート滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 102 | | キレート滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 102 | | キレート滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 共用試験において関連する基本的事項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。 |
| 103 | | 沈殿滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 103 | | 沈殿滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 103 | | 沈殿滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 共用試験において関連する基本的事項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。 |
| 104 | | 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 104 | | 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸性度、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 104 | | 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例 | 削除 | 共用試験において関連する基本的事項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。 |
| 104 | | 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |

| 行番号 | | | 追加・削除・変更を行う項目 | 意見の種類 | 意見及びその理由等 |
|-----|--------------|-----------|---|-------|---|
| 105 | | | 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例 | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸中性、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 105 | | | 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例 | 変更 | 「電気伝導度」→「伝導率」に変更すべき(日本薬局方の一般試験法では「誘電率」という用語が用いられている) |
| 105 | | | 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例 | 削除 | 共用試験において関連する基本的事項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。 |
| 106 | | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる | 変更 | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析 |
| 106 | | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる | 削除 | 各種滴定の項目に含まれているので、技能、操作を問う必要はないように思います。 |
| 106 | | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 106 | | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸中性、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 106 | | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる | 変更 | 到達目標において技能に関するにより、…「できる」を「方法」に変更すべきである |
| 107 | | 金属元素の分析 | 原子吸光度法の原理、操作法および応用例 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 108 | | | 差分光分析法の原理、操作法および応用例 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 109 | | クロマトグラフィー | クロマトグラフィーの種類(列挙)、それぞれの特徴と分離機構 | 追加 | 「クロマトグラフィーの基礎理論」として、保持値や理論段数にむすびつけるための段理論について触れ、具体的に表記した方が分かり易いのではないだろうか。 |
| 109 | | | クロマトグラフィーの種類(列挙)、それぞれの特徴と分離機構 | 追加 | 「クロマトグラムの取り扱い」として、ピークの高さやシムトリー係数などについて触れ、具体的に表記した方が分かり易いのではないだろうか。 |
| 109 | | | クロマトグラフィーの種類(列挙)、それぞれの特徴と分離機構 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 110 | | | クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置 | 追加 | 「クロマトグラフィーの基礎理論」として、保持値や理論段数にむすびつけるための段理論について触れ、具体的に表記した方が分かり易いのではないだろうか。 |
| 110 | | | クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置 | 追加 | 「クロマトグラムの取り扱い」として、ピークの高さやシムトリー係数などについて触れ、具体的に表記した方が分かり易いのではないだろうか。 |
| 110 | | | クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置 | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 111 | | | 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる | 削除 | 109に含まれる |
| 111 | | | 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 111 | | | 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる | 変更 | 到達目標において技能に関するにより、…「できる」を「方法」に変更すべきである |
| 111 | | | 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる | 変更 | 「薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析の予測ができる」に変更。ペーパー試験では、クロマトグラフィーを用いて分析をさせることはできないが、チャートを予測させることはできる。 |
| 112 | (3)分析技術の臨床応用 | 分析の準備 | 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる | 変更 | 代表的な生体試料に対する前処理法 |

| 行番号 | | | 追加・削除・変更を行う項目 | 意見の種類 | 意見及びその理由等 |
|-----|--|------|---|-------|---|
| 112 | | | 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる | 削除 | 純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。 |
| 112 | | | 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる | 変更 | 到達目標において技能に関するにより、…「できる」を「方法」に変更すべきである |
| 112 | | | 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる | | (3)分析技術の臨床応用(26~128行)に構造解析の手段としての差分光分析が取り上げられているが、これらの方法は(2)化学物質の検出と定量(92行)及び(3)分析技術の臨床応用の所で重要な定量技術(局方では多用)であるにも関わらず、含まれていない。 |
| 112 | | | 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる | 変更 | 「代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いを説明できる」に変更。ペーパー試験では、目的に即した前処理を行うことはできないが、知識は問うべきである。 |
| 113 | | | 臨床分析における精度管理および標準物質の意義 | | |
| 114 | | 分析技術 | 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法(列挙) | | |
| 115 | | | 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例 | | |
| 116 | | | 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる | 変更 | 酵素を用いた代表的な分析法の原理 |
| 116 | | | 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる | 変更 | 到達目標において技能に関するにより、…「できる」を「方法」に変更すべきである |
| 116 | | | 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる | 変更 | 「酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる」実施を削除した。ペーパー試験なので「実施を」削除 |
| 117 | | | 電気泳動法の原理を説明し、実施できる | 変更 | 電気泳動法の原理 |
| 117 | | | 電気泳動法の原理を説明し、実施できる | 変更 | 中項目の「(3)分析技術の臨床応用」に含まれていますが、臨床応用のみに限定せずに(2)の化学物質の検出と定量」に含めて、一般的な分析技術の一つとして扱う方が妥当ではないでしょうか。 |
| 117 | | | 電気泳動法の原理を説明し、実施できる | 変更 | 電気泳動の技能は行番号453で学ぶので、ここでは、「原理を説明できる」にどめるのがよい。また、分析化学を学ぶ時点では、生化学(タンパク質)を学んでいないことも変更の理由です。 |
| 117 | | | 電気泳動法の原理を説明し、実施できる | 変更 | 到達目標において技能に関するにより、…「できる」を「方法」に変更すべきである |
| 117 | | | 電気泳動法の原理を説明し、実施できる | 変更 | 「電気泳動法の原理を説明できる」実施を削除した。ペーパー試験なので「実施を」削除 |
| 118 | | | 代表的なセンサーの列挙、原理および応用例 | 変更 | センサーの種類を列挙できることは必要だと思いますが、応用まで問うのは難しく感じます。 |
| 119 | | | 代表的なドライケミストリー | 削除 | 国試内容として必ずしも必要とは思わない。 |
| 119 | | | 代表的なドライケミストリー | 削除 | 薬剤師にとって必要な知識と考えられる①製剤、医薬品の安定性②製剤、医薬品の親水性、疎水性、pH、酸中性、溶解度など③製剤、医薬品の調製④医薬品の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。 |
| 120 | | | 代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など) | | |
| 121 | | | 画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など) | | |
| 122 | | | 薬学領域で常用されるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど) | 変更 | 先端の方法論ではあるが、薬学領域で常用?出題するのであれば、基礎的事項のみが良い。 |
| 122 | | | 薬学領域で常用されるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど) | 削除 | 薬剤師として応用性が低く、内容が高度であると思います。 |